合意形成に基づく意思決定
CBDM

CONSENSUS BASED DECISION MAKING – なぜコンセンサスなのか？

APFは、ディスカッションベースのフォーラムであることに努め、NAの12のコンセプトのいくつかに沿って、コンセンサスは、対等なグループが共に意思決定するための方法であることに努めます。
このプロセスは、各人が真実の一部を持っているが、一人がすべての真実を持っているわけではない、という基本的な信念に基づいている。
私たちは、一つの問題について、単一の多数決ではなく、すべての参加者が納得する形で、共に解決策に到達するまで議論するよう努めます。
コンセンサスは、静かな少数派の意見にも耳を傾けながら、共に意思決定に至るよう努めます。

概念6は、「グループの良心は、私たちの意思決定に影響を与えるために、愛に満ちた神を招き入れるスピリチュアルな手段である」と述べています。ハイヤーパワーをサービスに呼び込む方法は人それぞれですが、全員がそのプロセスに参加することで、より良い決断を下すことができるのです。

概念7は、「サービス機関のすべてのメンバーは、その機関の決定に対して実質的な責任を負い、その意思決定プロセスに完全に参加することが許されるべきである」と述べています。コンセンサスは、すべてのAPF参加者が対等に見られることから始まります。私たちは皆、独自の経験や専門知識を持っていますが、どのメンバーも他の誰よりも優れているわけではありません。私たちは、各自がもたらすさまざまな視点、意見、経験、知識に耳を傾けることが、自分自身と互いに対する義務なのです。APF の最も優れた特質の 1 つは、その広大な多様性です。コンセンサスは、その多様性を尊重し、すべての参加者が、組織として意思決定を行う際に、平等にテーブルにつけるようにすることを目的としています。

概念9は、「私たちのサービス構造のすべての要素は、意思決定プロセスにおいて、あらゆる視点を慎重に考慮する責任がある」と述べています。上記のように、私たちは意思決定に至るまでに、多様なサービス機関のあらゆる

側面から意見を聞く責任を負っています。あるメンバーの声が、これまで考えもしなかった解決策への鍵を握っているかもしれませんし、一旦立ち止まって軌道修正する理由となるかもしれません。一方、合意形成の原則は、一人のメンバーを人質にして議論を進めるのではなく、メンバー全員のニーズを考慮しながら最終的な決断を下すことを意味しています。

CONSENSUS BASED DECISION MAKING – どのように効果があるのか

1. トピックの紹介
2. 関心度のテスト
3. トピックについて話し合う
4. 解決策をブレーンストーミングする
5. 解決策を明確にする
6. コンセンサスを得るためのテスト
7. 反対意見を聞く
8. もう一度コンセンサスを得るためのテストをする
9. 遅延 - 相談する - 情報提供
10. もう一度コンセンサスを得るためのテストをする

CONSENSUS BASED DECISION MAKING – 3 CARD SYSTEM

Green Card

- 提案された解決策を、あらゆることを考慮した上で支持することを示す。
- 提案のすべての側面に同意することはできませんが、議論を聞き、議論に参加する機会があり、解決策を支持する用意があることに同意する。
- いかなる提案も、前進させるためには少なくとも本体の過半数を必要とする

Yellow Card

- 脇に立つか、予約に同意します。（Standing aside or agreement with reservations.）
- 「これは失敗かもしれない、でも我慢できる 」「私個人はできないが、他の人がやるのは止めない」と思っている。
- イエローカードの割合が多いということは、ボディが前に進もうとする「意志がない」ことを示しています。

- イエローカードの反対意見は、議事録に記載することができます。

Red Card

- ブロックを示す。”私はこれを支持できないし、グループがこれを支持することを許可できない、それは我々の原理に反している"
- ブロックは、伝統や 概念のいずれかが提案によって直接的に侵害されると正直に信じる場合、または何らかの基本的な道徳的立場が侵害される場合にのみ取られる、稀で極端な反対意見の形態です。
- ブロックする参加者は、NAの基本である伝統や概念、ガイドラインやポリシー、スピリチュアルな原理のどれが、どのように侵害されているのかを明確に説明できなければならない。
- ブロックは個人的な好みではなく、一般に認められた原理に基づかなければなりません。
- 懸念が「有効な」ブロックである前に、グループは懸念の正当性を受け入れ、それを解決するための合理的な試みがなされなければならない。
- 「コンセンサス」と「概念」は、自分たちの意見を聞いてもらうこと、議論に参加することであり、自分たちのやり方を通すことではありません。私たちの懸念事項を聞いてもらうことと、組織で合意してもらうことは、必ずしも同じことではありません。

イエローカード、レッドカードを実施する前に考慮すべきポイント

- 他の人が指摘したことを、自分は受け流すことができるのか？
- 私の考えを他の人が理解してくれたと信じている。
- 他人の立場を理解していると思う
- この決定を好むと好まざるとにかかわらず、私はこれを支持します（そしてこれを弱めることはしません）。なぜなら、この決定はオープンで公正なものであり、この委員会が現時点で到達しうる最良の解決策だからです。
- ストロー・ポールは、各組織がどのような状態にあるかを評価するための情報である。投票ではありません。ストローポールは、議論の方向性を示すために用いるのが最適です。
- 提案の阻止は最後の手段であり、稀で極端な場合にのみ行われます。

CONSENSUS BASED DECISION MAKING – APF PROCESS

ステップ 1 トピックの紹介

・トピックは、議論のための課題として提示される。

・完全な形の提案は避け、可能であれば、解決しようとする課題に戻って議論する。

ステップ2 興味の有無のテスト

・私たちが共に過ごす時間は限られており、常に時間以上の仕事があります。

・どのトピックが最も重要かを決定するために、トピックに優先順位をつけます。

・小さなトピックは、1週間のうちで見つけた空き時間に扱うことができる。

ステップ3 トピックを議論する

・解決しなければならない問題に焦点を当てる。

・発生した副次的な問題は保留する

・質問をし、明確化する

・問題点を徹底的に理解し、共通認識を得る。

ステップ4 解決策を考える

・課題を解決するためのアイデアを提示し、議事録として明確化する。

ステップ5 解決策の明確化

・ファシリテーターは、解決策を明確にし、議事録のために言い直す。

ステップ6：合意形成のテスト

・緑色のカードは、解決策への支持を示します。

・反対意見はイエローカードかレッドカードのいずれかを提示する。

・反対意見がある場合は、次のステップに進みます。

ステップ 7 反対意見を聞く

・反対者は自分の意見を述べる

・本体が反対意見について議論し、理解を求め、解決策を提示する。

・小グループでの議論や休憩が必要な場合がある

ステップ 8 再度の合意形成のためのテスト

・90%の緑と黄色のカードが解決策への支持を示した場合、コンセンサスの達成。

・イエローカードは40%以下でなければならない。

・レッドカードは、ブロックであることを示し、次のステップに進みます。

ステップ9 遅延-相談-情報提供

・可能であれば、後日のセッションまで決定を遅らせるか、ワークグループにタスクを任せる

・APF コミュニティを参照し、検討する（提案された解決策ではなく、トピック）。

・他のソースからより多くの情報を求める

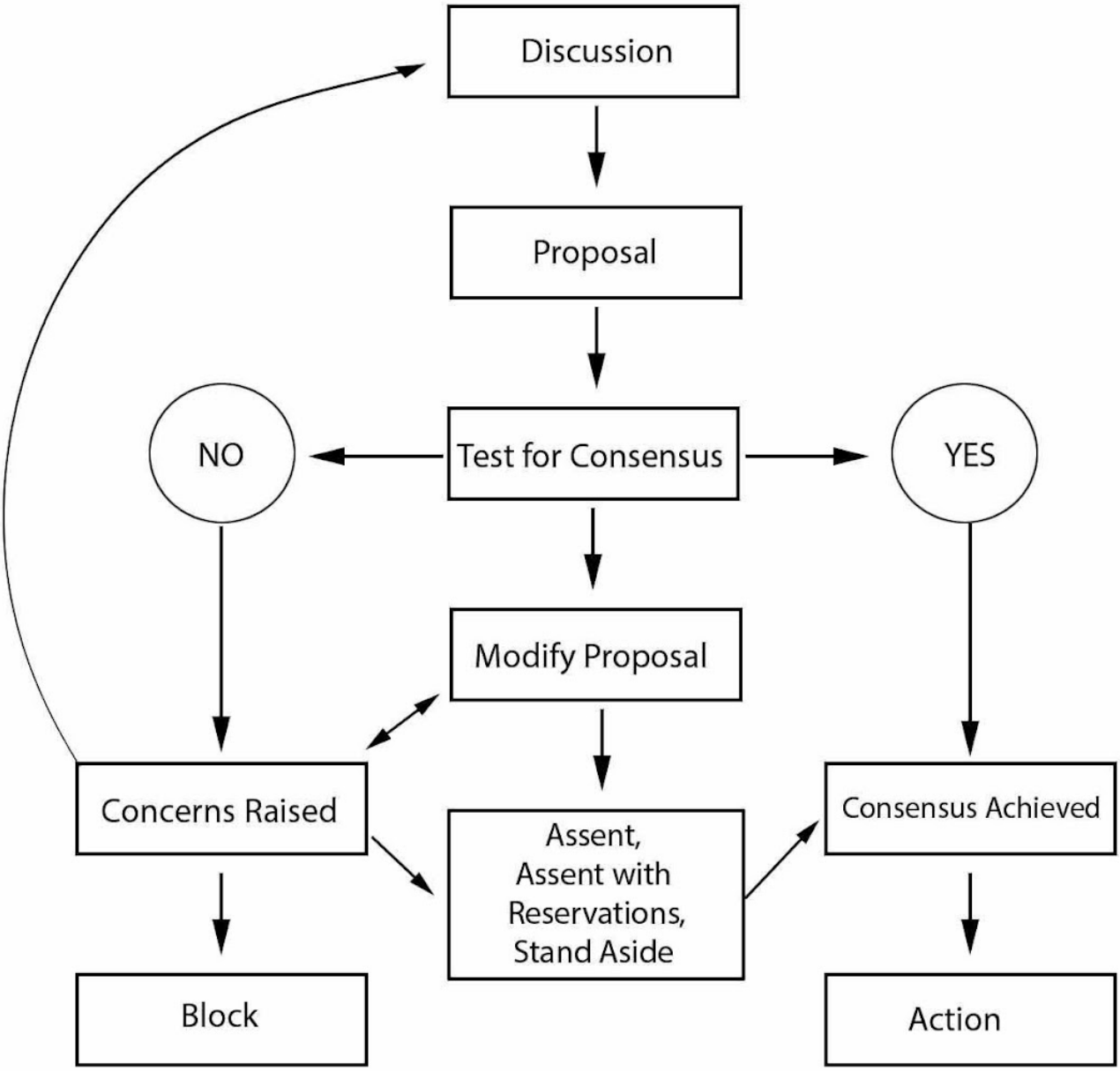
ステップ 10 再度の合意形成のためのテスト

・90%の緑と黄色のカードが解決策への支持を示した場合、コンセンサスの達成。

・イエローカードは40%以下でなければならない。

・ブロックの作成には11%のレッドカードが必要。

How It Flows


Discussion
Proposal
NO
Test for Consensus
YES
Modify Proposal
Concerns Raised
Assent,
Assent with
Reservations,
Stand Aside
Consensus Achieved
Block
Action